

機関紙をご覧いただいた支援者の方から、下記のお手紙が寄せられました。

会社を通して寄付をしたことをきっかけに、「自身も子を持つ親として、いつ当事者になるかわからないと考えたとき、できるわずかな支援をしたい」との思いから、個人寄付者として継続的なご支援をいただいております。

子どもたちの頑張っている姿や、保護者の方から寄せられるメッセージに励まされている様子が伝わる、とても心温まるお手紙でしたので、ご本人様了承のうえ、この度ご紹介させていただきます。

拝啓

秋冷の候、沖縄県交通遺児育成会事務局の皆様にはますますご清祥のことと存じます。

このたびは、南風平成 30 年度秋季号をお送りくださりまして、まことにありがとうございます。

子供たちの将来の夢や保護者様のメッセージ等を読み、改めて日常生活を維持することの大切さを実感いたします。また、紙面やホームページでは、夢に向けてチャレンジする子供たちの気持ちを感じることができ、私自身も現状に甘んじることなく前進しようと思える、気持ちの良い刺激をいただいております。

これもひとえに、懸け橋となる沖縄県交通遺児育成会という存在があるからこそであり、また会を運営する事務局の皆様のおかげだと実感しています。寄付に伴う様々な事務や定期的な育成会だよりの編集・発刊など、事務局の皆様の御苦勞察し致します。

季節の変わり目となり衣替えの季節を迎えますが、風邪などひかぬようご自愛ください。

敬具

2018 年 10 月 31 日

宇保直人

このお手紙は、私たち育成会にとりましても、大変心強いものとなっております。

当育成会は今後も、“皆様と子どもたちの架け橋となる存在”であり続けたいと願っています。皆様からのご支援に事務局一同深く感謝するとともに、これからも末永く子どもたちを見守っていただけますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。